

予算特別委員会資料

令和4年度予算説明書

交通局

目 次

○ 令和4年度予算編成方針……………	1
I. 令和4年度予算の概要	
< 自動車事業会計 > ……	2
< 高速鉄道事業会計 > ……	12
1 業務の予定量 ……	3
1 業務の予定量 ……	13
(1) 運転計画表 ……	3
(1) 運転計画表 ……	13
(2) 建設改良事業の概要 ……	3
(2) 建設改良事業の概要 ……	13
2 収入支出一覧 ……	4
2 収入支出一覧 ……	14
(1) 収益的収入及び支出 ……	4
(1) 収益的収入及び支出 ……	14
(2) 資本的収入及び支出 ……	4
(2) 資本的収入及び支出 ……	14
3 予算実施計画 ……	5
3 予算実施計画 ……	15
(1) 収益的収入及び支出 ……	5
(1) 収益的収入及び支出 ……	15
(2) 資本的収入及び支出 ……	7
(2) 資本的収入及び支出 ……	17
4 債務負担行為 ……	9
4 債務負担行為 ……	19
5 企業債 ……	9
5 企業債 ……	19
6 一時借入金 ……	9
6 一時借入金 ……	19
7 他会計からの補助金 ……	9
7 他会計からの補助金 ……	19
8 たな卸資産の購入限度額 ……	9
8 たな卸資産の購入限度額 ……	19
(参考)	9
(参考)	9
重要な資産の取得 ……	19
重要な資産の取得 ……	19
令和4年度予定キャッシュ・フロー計算書 ……	10
令和4年度予定キャッシュ・フロー計算書 ……	20
令和4年度予定貸借対照表 ……	11
令和4年度予定貸借対照表 ……	21
II. 令和4年度主要事業……………	22

令和4年度予算編成方針

本市の交通事業は、市民の日常生活や経済活動に必要な生活基盤としての役割を担い、その整備・充実に努めてきた。しかしながら、少子高齢化の進展、人口減少傾向の継続、施設の老朽化などに加え、地震や集中豪雨等の大規模災害の頻発、新たな感染症の拡大、ICT等の技術革新の進展など、公共交通を取り巻く環境が大きく変化しており、その中でも、市民に必要とされる公共交通であり続けるために、「市民の足」としての役割を積極的に果たすなど、神戸のひとの暮らしとまちの発展を支えていくことが求められている。

そのため、これまでも公営交通としての役割と企業としての経済性の両立を果たすべく、厳しい経営環境、財政状況の中、安全性強化や利便性・快適性の向上を図るほか、乗客増対策や附帯事業の収入増対策などの収益力の強化、人件費の抑制・物件費の縮減等の経営の効率化に取り組んできた。そして、令和3年度には、「市民の足」を持続的に提供していくため、公営交通を将来にわたり安定的に運営していけるよう、今後の事業環境や課題を踏まえた経営の方針や事業戦略、財政計画を定めた「神戸市営交通事業 経営計画 2025」(計画期間令和3年度～令和7年度)を策定し、経営方針に沿った事業戦略や経営改善に取り組んでいるところである。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症は未だ終息が見込めず、市バス・地下鉄のご利用者の減少傾向の継続など、今後も厳しい経営状況が続くものと見込んでいる。

そうした中においても、引き続き、経営計画の基本的な考え方である「安全・安心の確保」、「快適なサービスの提供」という公共交通機関としての使命を果たすとともに、公営交通事業に求められる「市民の足の確保」を通じて、神戸市営だからこその意義・役割である「神戸のまちづくりに貢献」とともに、経営計画で掲げた施策を着実に遂行するため、令和4年度に取り組むべき事業予算を編成した。今後も「安定的な経営基盤を確立」とともに、職員一人ひとりが「チャレンジ精神」を持って、未来に向けて新たに挑戦していくことで、「神戸の市民生活やまちの発展に貢献」していく。

I. 令和4年度予算の概要

〈自動車事業会計〉

1 業務の予定量

(1) 運転計画表

区 分	年 間	1 日 平 均	備 考
乗 車 人 員	56,802,030 人	155,622 人	敬老・福祉乗車人員等を含む
乗 車 料 収 入	8,573,337,000 円	23,488,595 円	敬老・福祉乗車負担金等を含む
運 転 走 行 キ ロ	16,370,250 km	44,850 km	
走 行 1 キ ロ 当 り 乗 車 人 員	3.47人		
走 行 1 キ ロ 当 り 乗 車 料 収 入	523円71銭		
1 人 平 均 乗 車 料 収 入	150円93銭		
在 籍 車 両 数	473両		
1 日 平 均 運 転 車 両 数	441両		
乗 務 員 数	運転士259人		

(2) 建設改良事業の概要

事 業 名	概 要	事 業 費
バス車両購入	路線バス購入	千円 453,244
建物建設工事	バス停留所設置工事等	117,847
機械装置設置	収入統計管理システム改修等	128,034
車両改良工事	ドライブレコーダー更新等	41,184
合 計		740,309

2 収入支出一覧

(1) 収益的収入及び支出

(単位：千円)

収 入			支 出		
款	項	金 額	款	項	金 額
1 自動車 事業収益		11,263,028	1 自動車 事業費		12,109,155
	1 営業収益	9,870,758		1 営業費用	11,763,884
	2 営業外収益	1,392,270		2 営業外費用	245,271
				3 予備費	100,000

(注) 当年度純損益(税抜)は△902,665千円、累積損益は△3,368,723千円となる。

(2) 資本的収入及び支出

(単位：千円)

収 入			支 出		
款	項	金 額	款	項	金 額
1 資本的収入		907,110	1 資本的支出		1,281,162
	1 企業債	710,000		1 建設改良費	740,309
	2 補助金	30,000		2 企業債償還金	339,799
	3 他会計繰入金	164,180		3 投資	1,054
	4 財産収入	2,780		4 予備費	200,000
	5 雑収入	150			

(注) 資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額374,052千円は、損益勘定留保資金等で補てんするものとする。

3 予算実施計画

(1) 収益的収入及び支出

①収入

款	項	目	予 定 額	説 明
1 自動車事業収益	1 営業収益		千円	
			11,263,028	
			9,870,758	※参考
		1 運輸収入	7,656,422	乗車料金
		2 他会計負担金	1,917,020	敬老・福祉乗車負担金等
		3 運輸雑収入	297,316	広告料等
			1,392,270	
		2 営業外収益		
		1 受取利息及配当金	5	預金利息
		2 県補助金	6,617	運輸事業振興助成補助金
		3 他会計補助金	1,310,672	自動車事業運営のための他会計補助金
		4 長期前受金戻入	10,000	減価償却等に対応する長期前受金の収益化
5 他会計繰入金	3,000	交通事業基金運用益の繰入金		
6 雑収入	61,976	負担金収入等		

※参考

年 間

1 日平均

乗 車 人 員

56,802千人

155,622人

乗 車 料 収 入

8,573,337千円

23,489千円

1 人平均乗車料収入

150円93銭

②支 出

款	項	目	予 定 額	説 明
1 自動車事業費	1 営業費用		千円	
			12,109,155	
			11,763,884	
		1 建物保存費	35,900	建物の維持補修に必要な費用
		2 車両保存費	1,120,910	車両の維持補修に必要な費用
		3 運 転 費	9,145,952	運転に必要な費用
		4 運輸管理費	713,653	運輸管理に必要な費用
		5 一般管理費	314,099	一般管理に必要な費用
		6 減価償却費	433,370	固定資産減価償却費
			245,271	
		2 営業外費用		
		1 支払利息及 企業債諸費	65,986	企業債等の支払利息及び諸手数料
		2 消費 税	179,264	消費税及び地方消費税納付額
3 雑 支 出	21			
	3 予 備 費			
		100,000		
	1 予 備 費	100,000		

給与費内訳

職員452人（短時間勤務職員48人を含む）の報酬49,116千円、給料 1,526,030千円、手当等 1,557,634千円、法定福利費 699,815千円を計上

(2) 資本的収入及び支出

①収 入

款	項	目	予 定 額	説 明
1 資本的収入			千円	
			907,110	
	1 企 業 債		710,000	
		1 企 業 債	710,000	建設改良費に充当する企業債
	2 補 助 金		30,000	
		1 他 会 計 補 助 金	30,000	バス上屋建設のための一般会計補助金
	3 他 会 計 繰 入 金		164,180	
		1 他 会 計 繰 入 金	164,180	高速鉄道事業会計からの繰入金
	4 財 産 収 入		2,780	
		1 財 産 収 入	2,780	資産売却代等
5 雑 収 入		150		
	1 雑 収 入	150		

②支 出

款	項	目	予 定 額	説 明
			千円	
1 資 本 的 支 出			1,281,162	
	1 建 設 改 良 費		740,309	
		1 建 設 費	494,116	バス停留所設置工事等
		2 改 良 費	246,193	バス車両関連設備の更新等
	2 企 業 債 償 還 金		339,799	
		1 企 業 債 償 還 金	286,799	企業債元金償還金
		2 資 本 費 平 準 化 債 償 還 金	53,000	資本費平準化債元金償還金
	3 投 資		1,054	
		1 投 資	1,054	自動車リサイクル料金の預託
	4 予 備 費		200,000	
		1 予 備 費	200,000	

4 債務負担行為

事 項	期 間	限 度 額
自動車事業修繕等 (令和4年度)	令和4～10年度	197,000千円
自動車事業建設 (令和4年度)	令和4～5年度	887,000千円

5 企業債

起債の目的	限度額	起債の方法	利率	償還の方法
自動車事業	千円 710,000	公債証券の発行 又は消費貸借の 方法により、借 り入れる（他の 地方公共団体と の共同発行を含 む。）。	9%以内 (ただし、利 率見直し方式 で借り入れる 資金につい て、利率の見 直しを行った 後において は、当該見直 し後の利率)	借入日の翌日から据置期 間を含め、30年以内に毎 年度元利均等その他の方 法により償還する。ただ し、財政上の都合等によ り定額以上を償還し、又 は借り換えることができ る。政府資金を借り入れ る場合は、その融資条件 による。
特別減収対策	709,000			
合 計	1,419,000			

6 一時借入金

借入限度額 4,500,000 千円

7 他会計からの補助金

1,310,672 千円

8 たな卸資産の購入限度額

15,000 千円

(参考)

令和4年度神戸市自動車事業会計予定キャッシュ・フロー計算書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

(単位：千円)

1	業務活動によるキャッシュ・フロー	
	当年度純損失	△ 902,665
	減価償却費	433,370
	退職給付引当金の増減額	4,430
	賞与・法定福利費引当金の増減額	22,791
	長期前受金戻入	△ 10,000
	受取利息及び受取配当金	△ 5
	支払利息	56,449
	長期預り金増減額	△ 17,449
	固定資産除却損	72,259
	未収金の増減額	△ 194,852
	未払金の増減額	401,541
	前受金の増減額	11,735
	預り金の増減額	1,587
	消費税資本的収支調整額	85,479
	小計	△ 35,330
	利息及び配当金の受取額	5
	利息の支払額	△ 56,449
	業務活動によるキャッシュ・フロー	△ 91,774
2	投資活動によるキャッシュ・フロー	
	固定資産の取得による支出	△ 940,309
	財産収入による収入	1,726
	雑収入による収入	150
	投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 938,433
3	財務活動によるキャッシュ・フロー	
	建設改良費等の財源に充てる企業債収入	710,000
	建設改良費等の財源に充てた企業債償還	△ 339,799
	特別減収対策企業債発行による企業債収入	709,000
	一時借入による収入	4,500,000
	一時借入金の返済による支出	△ 4,500,000
	国庫補助金による収入	30,000
	他会計繰入金による収入	164,180
	財務活動によるキャッシュ・フロー	1,273,381
	資金増加額	243,174
	資金期首残高	343,188
	資金期末残高	586,362

令和4年度神戸市自動車事業会計予定貸借対照表

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
固 定 資 産	17,736,549	固 定 負 債	11,657,963
運送施設有形固定資産	35,220,462	企 業 債	8,684,446
減 価 償 却 累 計 額	△ 17,590,145	引当金(退職給付引当金)	2,767,166
計	17,630,317	そ の 他 固 定 負 債	206,351
関連施設有形固定資産	163,286	流 動 負 債	4,863,304
減 価 償 却 累 計 額	△ 102,399	一 時 借 入 金	1,100,000
計	60,887	企 業 債	543,559
運送施設無形固定資産	13,632	未 払 金	2,034,405
関連施設無形固定資産	6,671	前 受 金	900,986
投 資	25,042	預 り 金	21,694
流 動 資 産	2,601,836	引当金(賞与等引当金)	243,051
現 金 預 金	586,362	そ の 他 流 動 負 債	19,609
未 収 金	1,992,947	繰 延 収 益	223,301
貯 蔵 品	22,527	長 期 前 受 金	2,431,814
		収 益 化 累 計 額	△ 2,208,513
		資 本 金	4,709,329
		剰 余 金	△ 1,115,512
		資 本 剰 余 金	3,090,553
		利 益 剰 余 金	△ 4,206,065
		未 処 分 利 益 剰 余 金	△ 4,206,065
合 計	20,338,385	合 計	20,338,385

I . 令和4年度予算の概要

〈高速鉄道事業会計〉

1 業務の予定量

(1) 運転計画表

区 分	年 間	1 日 平 均	備 考
乗 車 人 員	100,412,230 人	275,102 人	敬老・福祉乗車人員等を含む
乗 車 料 収 入	18,695,646,000 円	51,220,948 円	敬老・福祉乗車負担金等を含む
運 転 走 行 キ ロ	22,356,629 km	61,251 km	
走行1キロ当り乗車人員	4.49人		
走行1キロ当り乗車料収入	836円25銭		
1 人 平 均 乗 車 料 収 入	186円19銭		
在 籍 車 両 数	238両		
1 日 平 均 運 転 車 両 数	191両		
列 車 編 成	(西神・山手・北神線) 6両編成	(海岸線) 4両編成	
乗 務 員 数	運転士112人 車掌52人		

(2) 建設改良事業の概要

事 業 名	概 要	事 業 費
高 速 鉄 道 建 設	可動式ホーム柵設置工事、西神・山手線 新造車両購入、変電所・駅電気室更新工事、連動装置・ATC装置更新工事、ワンマン化対応改修、駅務機器更新費用、総係費等	千円 21,753,266
付 帯 事 業 建 設	西神中央百貨店ビル設備更新、駅ビル設備改修工事、ほか関連事業施設改修等	375,725
合 計		22,128,991

2 収入支出一覧

(1) 収益的収入及び支出

(単位：千円)

収 入			支 出		
款	項	金 額	款	項	金 額
1	高速鉄道 事業収益	24,194,161	1	高速鉄道 事業費	27,230,329
	1 営業収益	20,776,434		1 営業費用	25,097,641
	2 営業外収益	3,417,727		2 営業外費用	2,032,688
				3 予備費	100,000

(注) 当年度純損益(税抜)は △4,197,588千円、累積損益は △85,697,489千円となる。

(2) 資本的収入及び支出

(単位：千円)

収 入			支 出		
款	項	金 額	款	項	金 額
1	資本的収入	25,542,472	1	資本的支出	34,800,089
	1 企業債	17,247,000		1 建設改良費	22,128,991
	2 出資金	4,350,000		2 企業債償還金	11,949,516
	3 補助金	3,591,070		3 投資	84,402
	4 財産収入	32,288		4 保証金返還金	100,000
	5 基金繰入金	100,000		5 他会計繰出金	337,180
	6 雑収入	222,114		6 予備費	200,000

(注) 資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額9,257,617千円は、
損益勘定留保資金等で補てんするものとする。

3 予算実施計画

(1) 収益的収入及び支出

①収 入

款	項	目	予 定 額	説 明
1 高速鉄道事業収益	1 営業収益		千円	
			24,194,161	
			20,776,434	※参考
		1 運輸収入	17,130,862	乗車料金
		2 他会計負担金	1,564,784	敬老・福祉乗車負担金等
		3 運輸雑収入	1,272,984	広告料等
		4 付帯事業収入	807,804	土地物件貸付料
			3,417,727	
		2 営業外収益	57	預金利息
		1 受取利息及配当金	1,470,781	高速鉄道事業運営のための一般会計補助金
		2 他会計補助金	1,936,015	減価償却等に対応する長期前受金の収益化
3 長期前受金戻入	2,000			
4 基金繰入金	8,874			
5 雑収入				

※参考

年 間

1日平均

乗 車 人 員 100,412千人 275,102人

乗 車 料 収 入 18,695,646千円 51,221千円

1人平均乗車料収入 186円19銭

②支 出

款	項	目	予 定 額	説 明
			千円	
1 高速鉄道事業費			27,230,329	
	1 営業費用		25,097,641	
		1 線路保存費	1,269,387	線路施設等の維持補修に必要な費用
		2 電路保存費	1,138,532	電路施設の維持補修に必要な費用
		3 車両保存費	1,134,413	車両の維持補修に必要な費用
		4 運 転 費	4,449,803	運転に必要な費用
		5 運 輸 費	2,713,426	駅務に必要な費用
		6 運 輸 管 理 費	1,988,430	運輸管理に必要な費用
		7 一 般 管 理 費	1,113,580	一般管理に必要な費用
		8 減 価 償 却 費	11,290,070	固定資産減価償却費
	2 営業外費用		2,032,688	
		1 支 払 利 息 及 企 業 債 諸 費	2,030,688	企業債の支払利息及び諸手数料
		2 他 会 計 繰 出 金	2,000	自動車事業会計への繰出金
	3 予 備 費		100,000	
		1 予 備 費	100,000	

給与費内訳

職員644人（短時間勤務職員35人を含む）の報酬 43,788千円、給料 2,318,987千円、手当等 2,842,767千円、法定福利費 1,046,681千円を計上

(2) 資本的収入及び支出

①収 入

款	項	目	予 定 額	説 明
			千円	
1 資 本 的 収 入			25,542,472	
	1 企 業 債		17,247,000	
		1 企 業 債	16,908,000	建設改良費に充当する企業債
		2 特 例 債	339,000	企業債支払利息の一部に充当する企業債
	2 出 資 金		4,350,000	
		1 他 会 計 出 資 金	4,350,000	高速鉄道建設のための一般会計出資金
	3 補 助 金		3,591,070	
		1 他 会 計 補 助 金	3,255,353	高速鉄道建設のための一般会計補助金
		2 国 庫 補 助 金	335,717	高速鉄道建設のための国庫補助金
	4 財 産 収 入		32,288	
		1 基 金 収 入	32,288	交通事業基金運用益
	5 基 金 繰 入 金		100,000	
		1 基 金 繰 入 金	100,000	保証金返還金等に充当する基金繰入金
	6 雑 収 入		222,114	
		1 保 証 金	222,114	駅ビル・駅構内店舗からの保証金

②支 出

款	項	目	予 定 額	説 明
1 資 本 的 支 出	1 建 設 改 良 費		千円	
			34,800,089	
			22,128,991	
		1 用 地 費	79,200	鉄道用地等
		2 建 物 費	4,116,280	停車場建設費等
		3 線 路 設 備 費	435,615	土木工事費等
		4 電 路 設 備 費	2,841,895	電力線施設建設費等
		5 車 両 費	6,869,152	車両改良費
		6 機 械 装 置 費	7,265,933	停車場機械建設費等
		7 総 係 費	145,191	職員給与費等
		8 付 帯 事 業 建 設 費	375,725	駅ビル設備改修工事等
		2 企 業 債 償 還 金	11,949,516	
		1 企 業 債 償 還 金	8,800,247	
		2 特 例 債 償 還 金	590,980	
		3 資 本 費 負 担 緩 和 債 償 還 金	967,167	
		4 資 本 費 平 準 化 債 償 還 金	1,591,122	
		3 投 資	84,402	
		1 投 資	84,402	交通事業基金造成費
		4 保 証 金 返 還 金	100,000	
		1 保 証 金 返 還 金	100,000	駅ビル・駅構内店舗への保証金返還金
		5 他 会 計 繰 出 金	337,180	
1 他 会 計 繰 出 金	337,180	自動車事業会計への繰出金		
6 予 備 費	200,000			
1 予 備 費	200,000			

給与費内訳

職員13人の給料 51,140千円、手当等 71,566千円、法定福利費 20,950千円を計上

4 債務負担行為

事 項	期 間	限 度 額
高速鉄道事業修繕等 (令和4年度)	令和4～8年度	1,991,000千円
高速鉄道事業建設 (令和4年度)	令和4～7年度	7,498,992千円

5 企業債

起債の目的	限度額	起債の方法	利率	償還の方法
高 速 鉄 道 事 業	千円 16,908,000	公債証券の発行 又は消費貸借の 方法により、借 り入れる（他の 地方公共団体と の共同発行を含 む。）。	9%以内 (ただし、利率見 直し方式で借り入 れる資金につい て、利率の見直し を行った後におい ては、当該見直し 後の利率)	借入日の翌日から据置期 間を含め、40年以内に毎 年度元利均等その他の方 法により償還する。ただ し、財政上の都合等によ り定額以上を償還し、又 は借り換えることができ る。政府資金を借り入れ る場合は、その融資条件 による。
特 例 債	339,000			
合 計	17,247,000			

6 一時借入金

借入限度額 1,637,000 千円

7 他会計からの補助金 4,726,134 千円

8 たな卸資産の購入限度額 200,000 千円

9 重要な資産の取得

	種 類	名 称	数 量
取得する資産	建 物	付 帯 事 業 資 産	6,219㎡

(参考)

令和4年度神戸市高速鉄道事業会計予定キャッシュ・フロー計算書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

(単位：千円)

1	業務活動によるキャッシュ・フロー	
	当年度純利益	△ 4,197,588
	減価償却費	11,290,070
	固定資産除却損	718,346
	長期前受金戻入	△ 1,936,015
	退職給付引当金の増減額	47,391
	賞与・法定福利費引当金の増減額	△ 3,720
	長期前受金収入	△ 2,892
	受取利息及び受取配当金	△ 57
	支払利息	1,957,454
	消費税資本的収支調整額	1,783,408
	未収金の増減額	△ 399,321
	未払金の増減額	139,902
	小計	9,396,978
	利息及び配当金の受取額	57
	利息の支払額	△ 1,957,454
	業務活動によるキャッシュ・フロー	7,439,581
2	投資活動によるキャッシュ・フロー	
	固定資産の取得による支出	△ 22,328,991
	固定資産の取得にかかる補助金収入	865,280
	投資による支出	△ 84,402
	財産収入による収入	32,288
	基金繰入金による収入	100,000
	投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 21,415,825
3	財務活動によるキャッシュ・フロー	
	一時借入による収入	1,636,507
	一時借入の返済による支出	△ 1,636,507
	建設改良費等の財源に充てる企業債収入	17,247,000
	建設改良費等の財源に充てた企業債償還	△ 11,949,516
	出資金による収入	4,350,000
	補助金による収入	2,725,790
	雑収入による収入	222,114
	保証金償還による支出	△ 100,000
	他会計繰出金による支出	△ 337,180
	財務活動によるキャッシュ・フロー	12,158,208
	資金増加額	△ 1,818,036
	資金期首残高	3,799,950
	資金期末残高	1,981,914

令和4年度神戸市高速鉄道事業会計予定貸借対照表

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
	千円		千円
固 定 資 産	272,506,766	固 定 負 債	174,522,095
運送施設有形固定資産	557,394,393	企 業 債	166,092,000
減 価 償 却 累 計 額	△ 293,201,162	引当金(退職給付引当金)	6,138,969
計	264,193,231	そ の 他 固 定 負 債	2,291,126
付帯事業有形固定資産	15,873,463	流 動 負 債	19,596,490
減 価 償 却 累 計 額	△ 11,367,156	一 時 借 入 金	—
計	4,506,307	企 業 債	12,971,582
運送施設無形固定資産	686,527	未 払 金	4,491,381
投 資	3,120,701	前 受 金	1,512,238
流 動 資 産	8,982,628	預 り 金	139,470
現 金 預 金	1,981,914	引当金(賞与等引当金)	425,627
未 収 金	6,772,648	そ の 他 流 動 負 債	56,192
貯 蔵 品	227,719	繰 延 収 益	53,915,713
そ の 他 流 動 資 産	347	長 期 前 受 金	133,181,977
		収 益 化 累 計 額	△ 79,266,264
		資 本 金	104,187,900
		剰 余 金	△ 70,732,804
		資 本 剰 余 金	14,964,685
		利 益 剰 余 金	△ 85,697,489
		未 処 分 利 益 剰 余 金	△ 85,697,489
合 計	281,489,394	合 計	281,489,394

Ⅱ. 令和4年度主要事業

〈自動車事業会計・高速鉄道事業会計〉

令和4年度主要事業

1. 安全・安心・信頼の確保

7,036,770千円

- ・平成31年4月21日に起こした市バス重大事故を絶対に忘れず、最高の安全確保に向け総力をあげて取り組み、安全で安心な運行を徹底する。

《安全運行の徹底／安全運行を支える基盤の構築》

(1) 再発防止に向けた研修・取り組み

「4.21 三宮重大事故」を過去のものとして風化させないため、毎年4月16日～5月15日を「市バス事故ゼロ・安全安心運転推進月間」に設定し、“4月21日を忘れない取り組み”を引き続き実施する。さらに、当時の事故の状況をパネルや新聞記事等で展示した研修施設「安全の礎」を交通局内（御崎ビル）に設置し、採用時や研修の機会等に積極的に活用することで、「二度と事故を起こさない」という意識を全ての職員に徹底する。

また、安全運行に関わる管理職等に加え、知見のある外部専門家で構成する安全対策会議において、事故分析や再発防止対策等について、多角的な視点での議論を行い、現場へフィードバックすることで、安全運行の徹底を図る。

再発防止のための市バス運転士に対する取り組み（ソフト面）並びに市バス車両に関する取り組み（ハード面）をあわせて進めていくとともに、安全報告書に具体的に記載しホームページで公表することで、市民やお客様に対して「見える化」を図る。

(2) 新型車両の導入

西神・山手線、北神線の車両全編成の更新を行う。既に契約済みの28編成については令和4年度に6編成を導入することで更新を完了する。合わせて、令和5年度には旧北神車両分として1編成を更新し、全車両を6000形（新型車両）に更新する。

(3) 西神・山手線、北神線ホームドアの設置

駅ホームからの転落や車両との接触事故を防止するため事故の防止に有効なホームドアを、西神・山手線、北神線全駅に令和5年度末までに設置する。なお、ホームドアの設置に伴いダイヤ改正を行う。

- ・令和3年度設置完了駅（3駅）
新長田駅・西神中央駅・名谷駅
- ・令和4年度設置完了予定駅（10駅）
新神戸駅・湊川公園駅・学園都市駅・板宿駅・
西神南駅・長田駅・大倉山駅・上沢駅・
伊川谷駅・総合運動公園駅
- ・令和5年度設置完了予定駅（3駅）
県庁前駅・谷上駅・妙法寺駅

(4) 西神・山手線駅施設の老朽化対策

西神・山手線は開業より40年以上経過し、駅施設の老朽化が進んでいるため、順次改修を行っていく。令和4年度については、引き続き新長田駅の大規模改修および板宿駅改修の基本設計・実施設計を進めていく。

また、令和3年度に長田駅を美装化のモデル駅と設定し、壁や天井の清掃、再塗装や補修などを行った。さらに、令和4年度には、長田駅の取り組みを他の駅でも進めることで、ご利用いただきやすい駅づくりを進める。

(5) 地下鉄駅施設のユニバーサル対応の推進

ユニバーサルデザインに配慮した施設の整備を進めていく。令和4年度は、三宮駅東エレベーターの改造工事、湊川公園駅西口エレベーター設置工事を行うほか、妙法寺駅や上沢駅のエレベーターについても現在のバリアフリー基準に適合したエレベーターに更新を行う。

2. 快適で質の高いサービスの提供

938,193千円

- ・より快適で、より使いやすい市バス・地下鉄とするため乗り場やダイヤの「わかりにくさ」を解消するなど、すべての人にとって、よりわかりやすく、使いやすいサービスを提供する。

《快適なサービスの提供／「わかりやすさ・使いやすさ」の提供・追求》

(1) 定期券購入の利便性向上

① 定期券購入に伴うWEB予約サービスの導入

お客様がWEBで新規定期券の予約を行い、自動定期券発売機で発券・決済できるサービスを令和5年3月末に導入することで、定期券発売所の混雑緩和、お客様の利便性向上を図る。また、サービス開始にあたり、広報紙KOBEや車内広告などにより利用者への周知に努めていく。

② 自動定期券発売機の設置拡充

定期券WEB予約サービスの導入に伴い、予約サービスで申し込んだ定期券の発券・決済を行う自動定期券発売機の設置拡充を行い、サービス利用率を高める。

- ・令和4年度設置予定駅:三宮駅・名谷駅・妙法寺駅・学園都市駅・西神南駅
西神中央駅・谷上駅(新)・阪神御影駅(新)

(2) 市バスポイントサービスの運用

令和3年4月から市バスにおける乗車ポイントサービスを開始しており、ご利用額に応じたポイントを市バス・山陽バスの乗車時にご利用いただける制度として引き続き運用するとともに、さらなる周知に努めていく。

また、市バス専用カード・市バス昼間専用カードは令和4年3月末に利用終了、市バス磁気定期券は令和3年12月末に発売終了(最長で令和4年6月末に利用終了)しており、更なるIC化率の向上を図るため、乗車券のデジタル化など新たな施策の検討を進める。

(3) 地下鉄ポイントサービス導入による利便性の向上

より便利に使いやすいサービスとして、またIC化率の向上を目指して、令和6年度中にICカードを活用した地下鉄ポイントサービスを導入するためのシステム開発に着手する。導入にあたっては、現在の乗車券や割引サービスからの移行に加え、より効果的なポイントサービスも検討し、分かりやすく使いやすいサービスへと再編を図る。また、市バスポイントサービスや他の民間交通事業者とのシームレスな連携についても検討していく。

(検討の方向性)

- ・回数券、New Uラインカード⇒地下鉄ポイントサービスへの移行を検討
- ・地下鉄磁気定期券⇒IC定期券への移行を検討
- ・利便性の高い新たなサービスの検討

(4) お客様サービス・マナーの向上

市バスでは、お客様から寄せられるサービス・マナーに関するご意見やご要望を分析し、市バス各営業所間で情報共有するとともに、対応を協議検討し、市バス全乗務員に周知する。また、乗務員研修等で、自動車運転士ハンドブックにもとづいた接客・マナー教育を行う。さらに、管理職による添乗調査の結果に基づいた個別指導を強化するとともに、優良運転士には、表彰制度（グッドドライバー賞）や「サンキューカード」の交付によりモチベーションアップを図る。

地下鉄では、市バスと同様にお客様からのご意見等を逐次共有して改善に生かすとともに、外部講師による接客研修、定期教育訓練におけるマナー研修を引き続き実施し、市バス・地下鉄とも一層のサービス・マナー向上を図る。

(5) 地下鉄駅出入口への大型サイン（ロゴマーク）設置

地下鉄駅の地上出入口に、デザイン性にも配慮した共通デザインの大型サインを設置することで、駅の出入口をわかりやすくし、利便性の向上を図る。令和3年度に、大倉山駅への設置工事を行い、令和4年度も、引き続き他の駅への設置工事を進めていく。

(6) ホームページのリニューアル

お客様にとって、わかりやすく、アクセスしやすい案内の充実や情報発信を行うため、サイト構成を見直し、使い勝手・使い心地の良いホームページへリニューアルする。令和3年度に実施した「Urban Innovation KOBE」を活用した実証実験の結果を踏まえ、乗換案内や運行ダイヤなど、多くのお客様が求める情報に簡単に早くアクセスできるように改善することで、お客様満足度をさらに高め、市バス・地下鉄の利用促進を図る。

3. 「市民の足」の確保

1,119,638千円

- ・「市民の足」としての役割を積極的に果たし、神戸のひとの暮らしとまちの発展を支えていくとともに、お客様の声を貴重な経営資源と捉え、もっと乗っていただけ、必要としていただける公営交通をめざす。

《「市民の足」の確保・維持／もっと乗っていただける公営交通の実現》

(1) 市街地中心部における移動利便性の向上策の実施（実証実験 三宮・エリア110）

三宮都心部（駅ターミナルから概ね1km圏内）において、エリア内停留所間の市バスをICカードでご乗車いただいたお客様誰もが、均一料金110円となる実証実験「三宮・エリア110」を実施する。

移動に関する新たなライフスタイルを提案することで市バス乗車機会の拡大を目指すとともに、IC化率のさらなる向上を図る。市全体で進めている三宮再整備、都心の回遊性向上とも歩調をあわせ、市のまちづくり施策に寄与する。

（目標利用人数：年間13万人の乗客増）

あわせて、市バス乗継割引について、往路と復路で料金に差異が生じないように、1乗車目の料金を上限に2乗車目の料金を割引くよう改め、より分かりやすい料金制度とする。

(2) 市バスICカード2タッチ化による乗降データの活用とデータに基づく持続可能な路線バス網の構築に向けた取り組み

令和3年3月からの市バスICカード2タッチ化の開始により、バスダイヤ1便ごとのご利用状況の把握が可能となったため、「ご利用状況の見える化」として、系統や時間帯ごとの各停留所間におけるご利用状況をホームページに公表し、市バスのご利用状況の周知を進める。

また、令和3年度中に策定予定の「データに基づく持続可能な路線バス網の構築に関する基本的な考え方」に基づき、新長田バスロータリーの整備に伴う新長田駅を中心としたバス路線の再編など、乗降データを有効に活用したバス路線・ダイヤ編成に向けての検討を進めていく。

(3) お客様の意見の積極的な収集

市バスホームページのお問合せフォームにアクセスできる「QRコード」を主要停留所や車内に設置している「お客様の声ハガキ」に掲出し、積極的に意見や要望を募る。さらに、いただいた意見やご要望を活用し、サービスの充実を図る。

(4) 摩耶山（まやビューライン）・六甲山（六甲ケーブル）等への輸送力強化

令和3年度から運行を開始した三宮駅ターミナル前から摩耶ケーブル下までの急行便、JR六甲道から六甲ケーブル下までの急行便を引き続き運行する。運行に関しては、ゴールデンウィークや夏休み期間、秋の行楽シーズンなど観光客が多い時期に行うが、新型コロナウイルス感染症の状況にも配慮しながら、臨機応変に対応する。

系統	運行区間	内 容	備考
18 系統 急行便	三宮駅ターミナル前～地下鉄三宮駅前～新神戸駅前～摩耶ケーブル下	三宮から摩耶ケーブル下までの急行バスをまやビューラインの運行に合わせて運行し、摩耶山への観光客のアクセス向上を図る。 金土休：往路 5 本、復路 4 本（予定）	令和 4 年 4 月 29 日～5 月 8 日、
106 系統 急行便	JR 六甲道～神大国際文化研究科前～六甲ケーブル下	JR 六甲道、阪急六甲から神大国際文化研究科前、六甲ケーブル下への急行バスを運行し、六甲山及び神戸大学へのアクセス向上を図る。 平土休：往路 12 本、復路 9 本（予定）	7 月 23 日～11 月 30 日

(5) バス路線新設および変更等

系統	運行区間	内 容	備考
90 系統 廃止	石屋川・石屋川車庫前～水道筋 3～阪急王子公園～布引～地下鉄三宮駅前～新港町～メリケンパーク～中突堤中央ターミナル	令和 3 年度からポートループによるウォーターフロントエリアへのバス路線運行が開始したことに伴う路線の廃止 【参考】運行本数：平土日祝 6 往復	令和 4 年 4 月 1 日 実施予定
100 系統 延伸	JR 六甲道～水道筋 3～阪急王子公園～JR 灘～日赤病院から HAT 神戸・灘の浜～阪急王子公園～水道筋 3～JR 六甲道【循環】	90 系統の廃止による交通空白地の解消と利便性の向上を図るための路線の延伸 【参考】 運行本数：平土日祝 11 往復 ※循環から往復路線に変更	
2 系統 延伸	阪急六甲～青谷～布引～地下鉄三宮駅前～三宮センター街東口～三宮神社	磯上体育館のオープンに合わせて、一部便を「磯上公園前」に延伸 【参考】運行本数：8 往復（予定）	令和 4 年 7 月実施 予定

(6) シティー・ループ、山手線のサービス拡充

令和 4 年 4 月より、「シティー・ループ」および「山手線」については、民間事業者の自主運行として、そのノウハウを活かすことでサービス拡充を図る。

また、経済観光局・都市局等とともに事業者との連絡調整会議を設置・開催し、情報共有のうえ、適切な事業実施、さらに充実したサービスの実現に関して定期的に協議を行う。

<シティー・ループにおけるサービス拡充>

- ・神戸観光の広告塔・インフルエンサーとなる案内ガイドの添乗やダイヤの拡充
- ・2階建てオープントップバスである「SKYBUS KOBE」による、ルートや乗車券をシティー・ループと連携させた定期観光バスの運行
- ・1日乗車券（シティー・ループと Port Loop）の値下げ など

<山手線におけるサービス拡充>

- ・現在の運賃制度を継続したうえでダイヤの拡充
- ・1日乗車券の通用区間として山手線全線を追加
- ・地元商店街等との連携等 など

4. 神戸のまちづくりへの貢献

1,532,681 千円

- ・神戸の公共交通ネットワークの中心的存在である交通局がリーダーシップを発揮し、市民の移動を公共交通全体で支えていくとともに、神戸市が目指す将来像に向けた施策との連携により、まちづくりや都市経営に貢献する。

《公営交通としてまちづくりに貢献／市バス・地下鉄の連携、シームレス化》

(1) 燃料電池バスの導入

水素スマートシティ神戸構想を掲げているなか、公営交通として率先して燃料電池バスを導入し、CO₂や環境負荷物質を排出しないクリーンな路線バスを運行することで、水素社会の推進に貢献する。

なお、運行にあたっては、より多くの方にご利用いただけるような運用方法を検討していく。

(2) 市内公共交通サービスのシームレス化の推進

令和3年4月から、市バス普通区 IC 定期券について、普通区内の神姫バスおよび連節バス (PortLoop) にも乗車できることとしているが、これに加え、期間限定として、令和4年4月からはシティー・ループ線においても、半額 (130 円) でご利用いただける「市バス普通区 IC 定期券拡大キャンペーン」を実施し、市バス普通区定期券の付加価値と市民サービスの向上を図る。

また、市バスで実施している乗継割引制度の神姫バスへの導入に向けた協議・検討を進め、市内公共交通サービスのシームレス化を推進していく。

(3) 西神・山手線拠点駅 (三宮・名谷・新長田・西神中央) のリノベーション

①三宮駅東コンコースリニューアル

都心三宮再整備事業および「さんちか」のリニューアルに合わせて、西神・山手線三宮駅東コンコースの内装 (床・壁・天井等) 及び大型デジタルサイネージの設置などのリニューアルを行い、都心三宮の拠点駅の魅力向上を図る。令和3年度は設計に着手し、令和4年度は引き続き詳細設計を行い、工事に着手していく。(令和5年度完成予定)

②名谷駅ビルのリニューアル及び拡充 (駅ビル北館の新設)

「リノベーション・神戸」の一環として、名谷駅ビルの改修にあわせ、駅の北側に駅ビル北館を新設し、テナント再編等による利便施設の拡充に取り組む。

令和4年度：北館新設工事の実施

令和5年度：北館オープン

駅ビル本体リニューアル工事着工

令和6年度：全体リニューアル完成

③新長田駅リニューアル

拠点駅の魅力アップの観点からデザイン性を重視したリニューアル案として『「緑と光」～風に揺れる木々のゆらぎや光を抽象化した未来的な駅空間～』を市民の声を取り入れた上で決定した。令和5年度中の完成に向けて工事を進める。

④「(仮称) エキソアレ西神中央」の全館オープン

百貨店ビルは、令和4年4月に駅前商業施設「(仮称) エキソアレ西神中央」として全館リニューアルオープンする(設置・運営: 双日株式会社)。2～4階に入居する予定の生活雑貨やライフスタイル型書店などの核テナントを中心にこれまで以上に魅力的な施設を目指す。

(4) 西神車庫用地の利活用

北神線の市営化による現在の3車庫体制(名谷、西神、谷上)について、車庫運用の最適化等により名谷、谷上の2車庫体制とする。今後、廃止する西神車庫用地の一部を有効活用して、西神中央エリアの活性化を図り、リノベーション神戸を推進していく。

令和4年度は、民間事業者へのサウンディング調査等を実施し、事業可能性、土地利用計画等を検討する。

- ・令和4年度: サウンディング調査等の実施
- ・令和7年度当初: 西神車庫の廃止
- ・令和8年度以降: 利活用の実施

(5) 伊川谷用地の利活用

伊川谷エリアの活性化に寄与するため、人口誘引施策として伊川谷駅南側の所管用地の活用方法を見直し、集合住宅等の誘致を検討する。

- ・令和4年度: 事業者公募の準備、都市計画変更
- ・令和5年度: 事業者公募、選定
- ・令和6年度以降: 選定事業者による工事設計・着工

(6) 海岸線の集客増対策や地域活性化への貢献

沿線に人が集まり、地域が元気になるよう、地域の活性化や応援を図る取り組みを他部局や地域のキーマンと連携して実施し、乗客増につなげる。また、兵庫津ミュージアムのグランドオープンやこども家庭センター・こべっこランドの移転・オープンによる新たな人の動きに呼応して、ふさわしい駅の雰囲気づくりを進めていくとともに、企画乗車券の発売やイベントなど連携事業を実施し、海岸線の魅力向上とPRを図る。

(7) 北神地域の地域活性化への貢献

谷上駅周辺の店舗や神戸電鉄との連携を一層深めていくことで、谷上駅の拠点化、北神地域の活性化に貢献していく。乗車券と地域の飲食店や施設で利用できる金券・優待券がセットになった「有馬グルメ&湯けむりチケット」「有馬温泉太閤の湯クーポン」等企画乗車券の発売のほか、ハイキング等イベントの実施により北神地域と神戸市街地との交流を促進する。

5. 安定的な経営基盤の確立

1,294,104千円

- ・職員一人ひとりが、公営交通の役割を理解し、圧倒的当事者意識を持って主体的に行動するとともに、めざすべき目標を共有しながら実行するべく組織力を強化する。また、交通サービスを持続的に提供し続けていくために必要な経営基盤を構築するとともに、計画の進捗状況の評価・検証、進行管理を徹底し確実な実行をはかる。

《次世代を支える人材の確保・育成／安定的な経営を支える基盤の構築》

(1) 乗客増加対策の推進

民間事業者と連携した利便性向上策など、新たな乗客増加対策を検討・実施するとともに、引き続き、沿線地域の企業や店舗と連携したイベントの実施など乗客増加対策を実施・検討する。

- ・市街地中心部における移動利便性の向上策（三宮・エリア110）の実施（再掲）
- ・地下鉄ポイントサービス導入による利便性の向上（再掲）
- ・摩耶山・六甲山等への輸送力強化のための急行バスの運行（再掲）
- ・海岸線及び北神線の乗客増対策の実施（再掲）
- ・拠点駅のリノベーションや保有用地の利活用（再掲）
- ・スマホアプリを活用した乗車券やイベントの実施
- ・スタンプラリーや謎解き等沿線地域への周遊性を持たせたイベントの開催
- ・映画やドラマ等とタイアップしたSNSキャンペーン 等
- ・沿線スポーツチームと連携した企画の実施

(2) デジタルサイネージの設置拡充

広告料収入の拡大や駅舎のイメージアップに向けて、乗客数の多い三宮駅やJRと連絡する新長田駅において、駅施設のリニューアル工事にあわせてデジタルサイネージを設置する。

(3) 将来の公営交通を担う人材の確保・育成

採用要件の緩和を実施したほか、短時間勤務職員の活用を引き続き行うなど、市民の足として安定的な運行を継続していくために幅広い人材を確保する。また、女性の市バス運転士確保に向けた設備面の整備、採用広報としてセミナーへの参加やパンフレットの作成を行う。

加えて、新たに交通事業に専属で従事することを想定した一般行政職員の募集を行うほか、将来の交通事業の中核を担う職員の人材育成として、安全意識やサービス向上を目的とした研修や、現場の管理監督業務に従事する職員を対象とした研修などに取り組む。

(4) 市バス営業所の管理委託の継続

市バス事業における経営改善策として営業所の管理委託を継続する。

令和4年度をもって現在の委託契約期間を満了する中央南営業所については、令和5年度から令和9年度までの5年間の契約期間とする提案競技を実施し、受託事業者を改めて選定する。

(スケジュール)

- ・募集要項の配布 令和4年9月頃
- ・応募提案書類の受付 令和4年10月頃
- ・受託候補者の選定 令和4年11月以降
- ・近畿運輸局への許可申請 令和5年1月頃
- ・選定事業者による業務開始 令和5年4月1日

(現在の委託状況)

委託営業所	受託事業者	期間
魚崎営業所	阪急バス(株)	令和4年度～令和8年度
中央南営業所	神姫バス(株)	平成30年度～令和4年度
松原営業所	阪急バス(株)	令和4年度～令和8年度
落合営業所	神姫バス(株)	令和4年度～令和8年度
清水が丘営業所	山陽バス(株)	令和2年度～令和6年度
西神営業所	神姫バス(株)	令和4年度～令和8年度

(5) 神戸交通振興(株)の解散に伴う円滑な業務の実施

神戸交通振興(株)の解散に伴い、各業務を後継事業者等において着実に引継ぐとともに、円滑に継続実施していく。

業務	対応
・駅ビル管理等の不動産業務 (駅ビル・駅構内事業等)	・(株)OMこうべに不動産業務を集約 ※神戸交通振興(株)所有の建物については交通局が取得
・観光バス(シティー・ループ) ・路線バス(山手線・山麓線)	・シティー・ループは神姫バス(株)、神姫観光(株)により運行 ・山手線は神姫バス(株)により運行 ・山麓線は交通局により運行
・地下鉄駅務業務 (西神・山手線、海岸線)	・近畿日本鉄道(株)に委託
・市バス車両整備業務 (車両工場、直営3営業所車庫)	・市バス整備部門に統合し、直営化
・定期券発売所 (三宮駅・新長田駅・名谷駅・神戸駅前営業所)	・神姫バス(株)に委託
・広告事業	・阪急阪神マーケティングソリューションズ(株)に委託

(今後のスケジュール)

- ・令和4年3月31日：神戸交通振興(株)のすべての事業を終了
- ・令和4年4月1日：次期事業者等による業務の開始
- ・令和4年4月末：解散、清算開始

(6) 経営計画の推進

経営計画に掲げた目標や取り組み事項について、その進捗状況を常に評価・検証を繰り返し、進行管理を徹底していくことで、着実な実行を図る。

《地下鉄・市バスのダイヤ改正について》

(1) ホームドア設置に伴うダイヤ改正

西神・山手線、北神線へのホームドアの設置に伴い、各駅における停車時間が数秒ずつ増加することから、令和4年6月にダイヤ改正を実施する。

三宮到着時間	現状	ダイヤ改正後
7:00～7:30	6	6 (－)
7:30～8:00	9	8 (△1)
8:00～8:30	10	9 (△1)
8:30～9:00	9	8 (△1)
合計	34	31 (△3)

(2) 新型コロナウイルス感染症拡大によるご利用状況に応じた減便の実施

市バスでは、新型コロナウイルス感染症拡大に伴うライフスタイルの変化により、利用者が減少傾向にあり、今後も感染拡大前のご利用状況に回復する見込みが少ないことから、令和4年4月1日より、ご利用状況に応じた減便やダイヤの改正を行う。なお、ご利用状況が復元した路線については再度増便を行うなど見直しを検討する。

運行本数合計（平日）R3年度：5,835本 → R4年度：5,549本（△5%程度）

系統	運行区間	内容	備考
2系統	阪急六甲～青谷～布引～地下鉄三宮駅前～三宮神社（元町1丁目）	往路10本、復路11本減便 平日：往路172本 → 162本 復路174本 → 163本	令和4年 4月1日 実施
3系統	吉田町1～東尻池2～名倉町～新開地～吉田町1	往路10本、復路10本減便 平日：往路72本 → 62本 復路71本 → 61本	
5系統	若草町～広畑橋～板宿～新長田駅前～板宿～明神町～若草町	往路7本減便 平日：66本 → 59本	
7系統	市民福祉交流センター前三宮駅前～平野～新開地～神戸駅前	往路6本、復路7本減便 平日：往路105本 → 99本 復路105本 → 98本	
11系統	神戸駅前～新開地～房王寺町5～宮川町9～五位ノ池～板宿	往路14本、復路14本 平日：往路83本 → 69本 復路81本 → 67本	
19系統	阪神御影～城ノ前～阪急御影～甲南病院前～鴨子ヶ原（循環）	往路6本減便 平日：往路63本 → 57本	
21・22・28（循環）系統	西神中央駅前～美賀多台・檜野台～春日台～西神中央駅前	往路1本 平日：往路50本 → 49本	
21・22・28系統※	西神中央駅前～美賀多台・檜野台～西体育館	往路21本、復路14本減便 （うち、市バス 往路21本 復路14本減便） 平日：往路196本 → 175本 （市バス109本→88本） 復路210本 → 196本 （市バス121本→107本）	
31系統	JR甲南山手～JR本山駅前～岡本9～白鶴美術館前～渦森台	往路6本、復路6本減便 平日：往路41本 → 35本 復路43本 → 37本	

系統	運行区間	内 容
35 系統	魚崎車庫前～阪神御影南口～魚崎車庫前	往路 4 本減便 平日：往路 33 本 → 29 本
38 系統	阪神御影～東灘区役所前～白鶴美術館前～渦森台	往路 4 本、復路 6 本減便 平日：往路 67 本 → 63 本 復路 72 本 → 66 本
51 系統※	舞子駅前～東舞子小学校前～星陵台～県商前～舞子高校前～学園都市駅前	往路 2 本、復路 8 本減便 (うち、市バス 往路+3 本、復路+4 本) 平日：往路 85 本 → 83 本 (市バス 26 本 → 29 本) 復路 89 本 → 81 本 (市バス 29 本 → 33 本)
53 系統※	舞子駅前～本多聞 5 ～舞子高校前～学が丘～学園都市駅前	往路 5 本、復路 12 本減便 (うち、市バス 往路 3 本 復路 11 本減便) 平日：往路 123 本 → 118 本 (市バス 78 本 → 75 本) 復路 129 本 → 117 本 (市バス 83 本 → 72 本)
54 系統※	舞子駅前～公団住宅前～多聞団地センター～学園都市駅前	往路 4 本、復路 7 本減便 (うち、市バス 往路 8 本 復路 8 本減便) 平日：往路 103 本 → 99 本 (市バス 51 本 → 43 本) 復路 97 本 → 90 本 (市バス 51 本 → 43 本)
55・58 系統※	朝霧駅前～明舞センター～神陵台(～伊川谷高校前)	往路 13 本、復路 11 本減便 (うち、市バス 往路 2 本、復路 3 本減便) 平日：往路 102 本 → 89 本 (市バス 34 本 → 32 本) 復路 96 本 → 85 本 (市バス 33 本 → 30 本)
64 系統	三宮駅ターミナル前(三宮駅前)～新神戸駅前～箕谷駅前～神戸北町	往路 5 本、復路 8 本減便 平日：往路 114 本 → 109 本 復路 128 本 → 120 本
70 系統	名谷駅前～白川台センター～白川台	往路 14 本、復路 10 本減便 平日：往路 85 本 → 71 本 復路 88 本 → 78 本
73 系統	名谷駅前～北須磨団地～友が丘～妙法寺駅前	往路 12 本、復路 12 本 平日：往路 92 本 → 80 本 復路 92 本 → 80 本
77 系統	名谷駅前～須磨東高校前～白川台 4 ～北落合 2 ～名谷駅前	往路 9 本減便 平日：105 本 → 96 本
78 系統	名谷駅前～竜が台 7 ～南落合 4 ～須磨東高校前～名谷駅前	往路 8 本減便 平日：70 本 → 62 本
81 系統	須磨一の谷～新長田駅前～須磨一の谷	往路 7 本減便 平日：49 本 → 42 本
92 系統	石屋川車庫前～水道筋 3 丁目～三宮センター街東口～三宮神社(元町 1 丁目)	往路 8 本、復路 8 本減便 平日：往路 99 本 → 91 本 復路 99 本 → 91 本

※21・22・28 系統は神姫バスとの運行本数の合計

※51・53・54・55・58 系統は山陽バスとの運行本数の合計

※山陽バス 48 系統については、往路 1 本・復路 4 本の減便を予定(市バス 171 系統に変更なし)